織り成す木々は、里を熾す。

兵庫県川西市黒川地区は日本一の里山と呼ばれてきた。炭焼きという生業によって主にクヌギからなる里山林を循環利用していることから、生物多様性が高いことが由縁である。しかし今や炭焼き農家は集落にわずか一軒しか残っていない。外の若い力が加えられ、集落内関係性が崩れかけてしまっている。そんなこれからを担う立ち向かうために、地域をかけて里山林の中に対して開き、自然の循環利用を拡大していく事業、「大梶」プロジェクトが始動する。人と自然の共生の在り方を考え、炭焼き農家を中心とした新たな循環を構築していく。

01 里山の背景

里山とは、人が伐採し手を加えることで萌芽・再生という循環が続いている山のことである。

里山には、言わば人が手を加えることで成り立つ生態系が形成されてきた。人が伐採することで高木で暗くなった山に光が入り、下草が生え、昆虫や鳥が生きる自然環境ができる。そんな自然と人間生活の二つが密接に関わり合った循環が里山では当たり前に存在していた。
しかしエネルギー革命、農業の化学化によって里山の自然は次第に利活用されなくなり、やがて放棄された。
里山であった場所には経済活動のためにスギやヒノキなど高木の拡大造林が形成されたが、多種な樹種がもたらす豊かな生態系は失われ、森林の隣接地帯における土砂災害や獣害が拡大している。
そのような背景から里山の価値を見なおす声が上がってきているが、依然として人手不足によって維持管理が困難となった放棄森林や耕作放棄地は多い。
この先も自然と人間生活の循環は離れ、里山を残らした人間生活が拡大する一方なのだろうか。

兵庫県川西市黒川地区は今なお生業として炭焼きを行い、原料となるクヌギ林を循環利用していることから日本一の里山と呼ばれている。しかし、それもいつまで続くだろうか。炭焼き農家は集落にわずか一軒しか残っておらず、里山維持に直接関わる人がほとんどいないのが現状である。日本一の里山ですら、今後10年で消滅の危機に瀕すると言われているのである。

菊炭
黒川地区の伝統産業である炭焼きによって作られる高級茶炭、クヌギを原料とする。

炭窯
毎年１２月～５月の間炭焼きを行う。その間は窯の温度を下げないため、３日間燃やして４、５日間冷ますというサイクルを休むことなく続けていく。

台場クヌギ
炭の原料。10年ごとに伐採・萌芽再生を繰り返す。同じ位置で伐採するに伴い伐採位置が膨らみ、特徴的な形をした台場クヌギとなる。山奥では高い位置で台場を仕立てたクヌギが土地境界の目印となる。毎年約1.5haのクヌギ林を伐採する傾伐により、伐採齢の異なるクヌギ林群が隣接し合う特徴的な里山のパッチワーク状景観を形成する。

02 黒川の声

「昔はあのおじいさんが芝刈りに行ったりとかってあったんだけどね。もう生活のためにそれする必要がなくなってきたとね。でも木は切ってね、どんどん再生させてやらんとあかん。」

「生まれたときからずっとここやからこそ、ここの良さが分からなかったりする。」

「体験学習の小学生が来たときだけわーなって、帰ったらしーんって。さみしいよね、やっぱり。」

「あまより他所から入ってくんのは、好まんような形のとこでするね。ハイカーとかね。はっぱ摘んで唄を潰しまるわけや。よその家の前をずっと歩くんで、ちらちら見いもって歩くわな家の中を。あんまり感じのえすことじゃないと思うけどな。」

「みんな子供が都会に出て行ってすねちゃって、自分らもどうせなだけいますって出ていくんやろうって思われてる。一代先のことも考えてんのかなあ。今だけ自分だけ死ねまでやえええって。どっかで寂しいなって思ってるんじゃないかな。でも答えが出ないよね。」

03 コンセプト～里熾し～

其の一　火を囲む〈二つの境界を再構築する街道〉

一、自然と人の境界
十数年前に黒川民総出で黒川一帯約4.5kmに鹿除け網を渡したが例本等で壊れ、現在メンテナンスができずに獣害が拡大している。

朝挽した鹿網跡地に木杭を打ち込み補強しつつ
鹿除け網を渡すことで人と自然の境界を再構築する

二、公と私の境界
黒川は多くの人がハイキングに訪れるが、中にはプライベートな敷地に入ってしまったり、田んぼにゴミを捨てる人がいる。

黒川の名所を繋ぎつつ住民の生活を侵害しない街道を
整備し公と私の境界を再構築する

其の二　火に新鮮な風を送る〈新たな循環を創る大梶〉

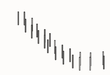
一、人の循環
数日間の里山体験宿泊によって、黒川の生業に触れる。移住の決め手になるかもしれないし、移住者の人となりを知りたい住人の思いに寄り添う。

黒川の里山に移住する子育て世代を増やし
里における人の循環を再生する

二、森の循環
山道と大梶は川西市内に群生する赤松、そして三重県で林業を営むブルーベリー農園園主の実家が残った吉野杉の集成材を使用する。

大規模な木材利用は川西市の林業循環を支え続け
吉野杉産地との新たな関わりも生み出す

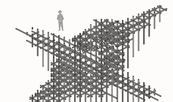
04 全体ダイアグラム



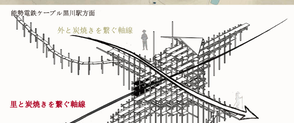
1、鹿除け網跡地である斜面に
木杭を刺し、補強する

2、木杭の延長に街道を整備する

3、炭焼き農家宅裏山の土砂災害危険渓流上に
杭を打ち、補強する



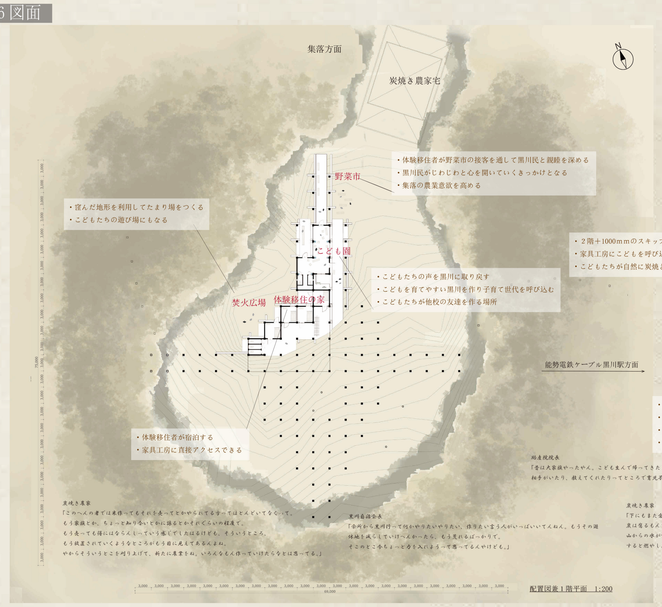
4、杭の延長上に台場クヌギの様に中央部を膨らませて
木造格子を纏わせ空間を生み出す

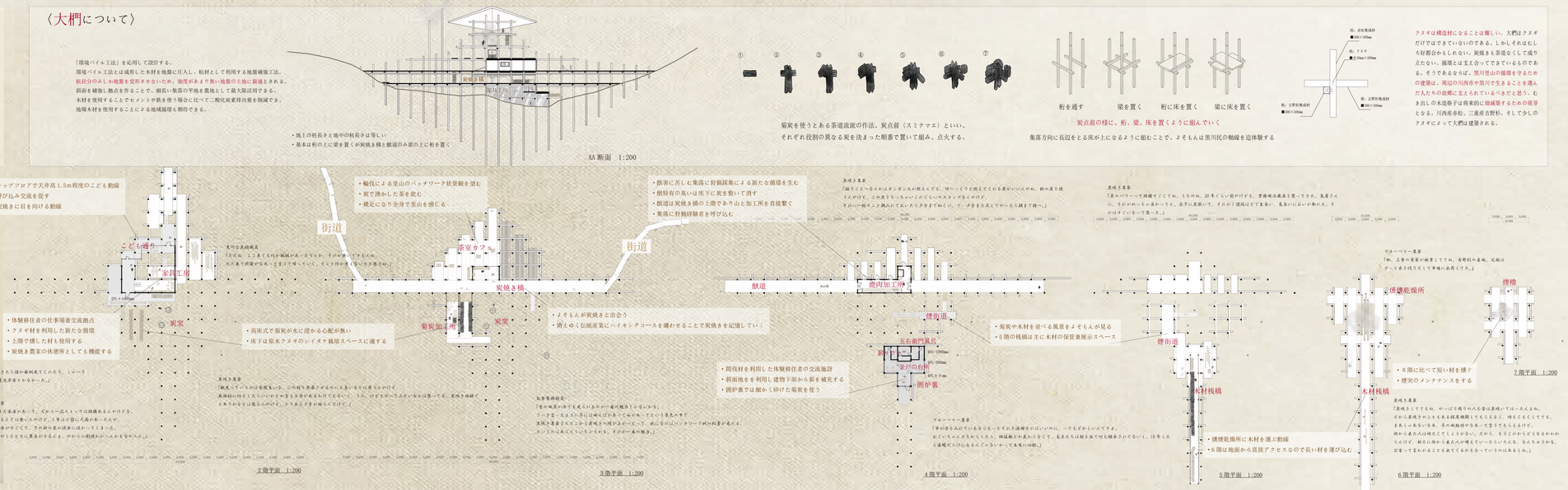


5、建築「大梶」は里と炭焼きを繋ぐ軸線、
外と炭焼きを繋ぐ軸線（街道）が立体交差する

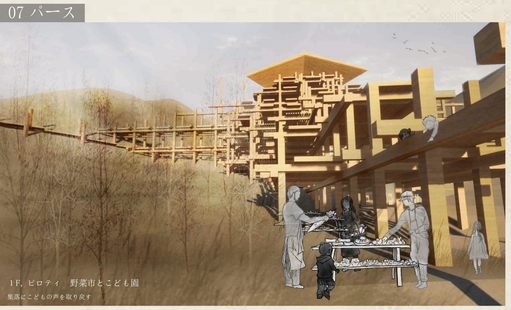
05 配置図

06 図面





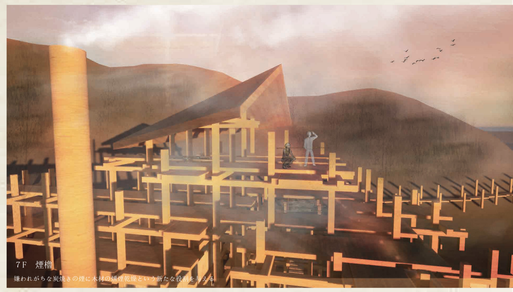
07 パース

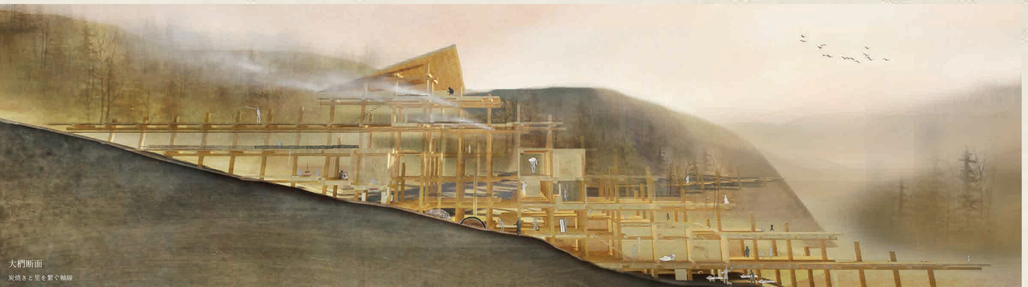

1F. ピロティ　野菜市とこども園
集落にこどもの声を取り戻す

2F　体験移住の家と家具工房
炭焼きと若者とこどもを繋ぐ

3F　炭焼き橋
街道を歩く里外の人が炭焼きと出会う

4F　山に囲まれた里山茶室
里山を望める茶室と休憩


7F　煙機
薫れがちな炭焼きの煙は木材桟橋と煙突を通ってこの高さまで上がる。


大梶断面
炭焼きと里を繋ぐ軸線

3F　茶室カフェ
里山のパッチワーク状景観を望む

街道と姿を表す大梶
里からのファサード

夜景
里からのファサード